

# 里親制度国際シンポジウム



虐待や親の病気など様々な理由で家庭で暮らせない子どもを必要な期間だけ家庭に受け入れる「里親制度」。里親などへの子どもの委託率は約 18%と低い水準ですが、国は大幅に引き上げようとしています。今回は、米国の里親家庭や施設などで育った「当事者ユース」が制度改善のために活動してきた手法や成果、日本でも始まった当事者ユースの活動などを紹介し、日本の里親制度の望ましい方向性について考えます。

## 2 / 15 (金)

13時30分～16時40分

会場

### 新宿文化センター 小ホール

東京都新宿区新宿 6-14-1

副都心線/大江戸線・東新宿駅 A3 出口より 5分  
丸ノ内線・新宿三丁目駅 E1 出口より 7分  
都営新宿線・新宿三丁目駅 C7 出口より 10分  
JR 線/京王線/小田急線・新宿駅東口より 15分

地図はこちら



■ 入場：1,000 円(資料代含む)【定員 210 名】

■ 主催：里親制度国際シンポジウム実行委員会  
(=全国里親会、日本フォスターケア研究会、IFCA など)

後援：全国社会福祉協議会、全国児童養護施設協議会、  
全国乳児福祉協議会、全国児童家庭支援センター協議会、  
日本ファミリーホーム協議会、東京都、特別区長会、  
新聞各社 (申請中)

## 基調講演

### ● 「米国の当事者ユースによる里親制度等への参画」(70分)



講師：アイデ・クーザ氏

米国ユース組織「カリフォルニア・ユース・コネクション (CYC)」エグゼクティブ・ディレクター

【内容】▼ CYC の理念と活動 ▼ どのような場面・手法で行政や立法等に働きかけるのか  
▼ 法律制定など活動成果 ▼ 当事者参画やそのためのトレーニングの具体的な内容  
▼ 当事者ユースが里親研修で講師を務める際の講義内容 ▼ 日本へのメッセージ——など。

## 発表・ディスカッション

- 厚生労働省・島玲志専門官「日本の里親制度の現状」(20分)
- 日本のユース 2 名「日本でも始まった当事者ユースの活動」(35分)
- パネルディスカッション(40分) コーディネーター：林浩康/日本女子大教授

